

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 安藤絵美子

本研究は、集団レベルの職場の資源として、職場のソーシャル・キャピタルは労働者個人の心理的ストレス反応を抑制するか、社会医療法人の職員を対象に2年間にわたり実施した質問紙調査を用いた観察研究をもとに検討し、下記の結果を得た。

1. 職場のソーシャル・キャピタルは、労働者個人の心理的ストレス反応と正の関連を示したが、統計学的には有意ではなかった。
2. 職場のソーシャル・キャピタルの下位尺度のうち、結束型職場のソーシャル・キャピタルが労働者個人の心理的ストレス反応と、統計学的に有意な正の関連を示した。しかし、個人のソーシャル・キャピタルとの交互作用項は統計学的には有意ではなかった。
3. 上記の傾向は、観察期間の長短を問わず、一致した。

以上、本論文では、医療職や福祉職を含む社会医療法人職員において、職場レベルのソーシャル・キャピタルの労働者個人への心理的ストレス反応の抑制効果は確認されなかった。しかし、結束型職場のソーシャル・キャピタルについては、部分的ではあるが心理的ストレス反応を増悪させる可能性が示唆された。本結果は、これまで国外でもわずかにしか行われてこなかった、マクロレベルの職場のソーシャル・キャピタルと労働者個人のメンタルヘルスの関連について、わが国の労働者を対象とした初めての研究知見である。わが国のように同質性が強く、ヒエラルキーに基づく社会では、職場レベルの高い凝集性や互酬性が、労働者のメンタルヘルス不調を招く可能性を部分的に示唆した。

本研究は、日本における労働者のメンタルヘルスを考慮した職場づくりに重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。